

## 浜松観光ボランティアガイドの会

### 会長メッセージ「コロナに負けずに頑張ろう」

浜松観光ボランティアガイドの会 会長 大村真佐夫



昨年5月、華々しく【令和】がスタートしました。日浅くして「新型コロナウイルス」の大流行により、東京五輪はじめ各種催物は延期や中止になりました。全国に【緊急事態宣言】が発せられ、国民生活に大きな影響が出て世の中の景色は一変しました。見えない敵との対決に大きな不安と気鬱(きうつ)を感じる今日この頃であります。

昨年度を振り返りますと、皆さんのお陰で成果ある1年となりました。今年度は8名の新人が加入され115名と前年より3名増となり、力強い限りであります。研修部の各種施策は概ね50%以上の参加者があり、事業部の夏と冬の恒例行事の参加者共に増えました。小学校のふるさと講座・同行ガイド等が出た今までにない要望に対応していました。資料館部も、

マスコミへの情報提供、団体の調整、年末の資料館の見回りや園内の車止め・禁煙施策等の環境整備を含め資料館運営管理を地道に行ってくれました。ブロック部は①4拠点の総括、②同行ガイドの的確な対応、③全ブロックの防災センター研修、④各ブロックのミニ研の実施、⑤ブロックの取り纏め等積極的に活動してくれました。事務局は総会準備や、20周年式典準備等常に裏方的仕事に携わってくれました。広報部は、部員による取材や会員の投稿等、内容も豊富で分りやすい会報が発行されました。また、HPの更新やマスコミ等、的確な対応により会のPRに努めてくれました。

20周年記念行事は、式典行事と半年に亘る委員の尽力により記念誌の発行ができ、会としての一区切りができました。感謝申し上げます。元年度で残念なのは犀ヶ崖資料館以外は、3月8日からボランティア活動が休止になったこととあります。会結成初の休止は悔いが残る出来事となりました。

今年度の運営につきましては、4月25日現在、私達の活動4拠点は5月6日迄国の緊急事態宣言により休館になっています。会としては一部施設を除き5月末まで休止を考えています。活動の休止は、会員の健康や周囲の状況を考慮して判断し、活動については関係機関と相談して参ります。

当面考慮している具体的事項は、①活動休止もありうるが、原則として4つの拠点の活動は継続していきます。当番の割り振りは準備してください。②恒例の部外行事は、一先ず準備のこと。③運営委員会、専門部会、ブロック会は柔軟に対応して可。④研修旅行は中止。座学研修は無期延期。⑤来年1月の養成講座は実施の予定。⑥同行ガイドは本年は中止。当会への団体予約は状況不透明のため受付中止。⑦会報は5月号は発行して、以降は状況次第。以上の点は状況により変更はあり得ます。

残念ながら今年度の活動は相当な厳しさが想定されますが、可能な部分があれば工夫して対応を考えます。4拠点の方とは誠意をもって対応して参ります。

世の中一大事です。このような時こそ、一体となった行動が必要です。

私達もコミュニケーション・情報収集を図り適切な運営をしていきます。また、活動の減少はガイド力の低下を招きます。資料を見直すとか自己研鑽をしていきましょう。

今年は憂鬱な日が続きます。とにかく体に留意して気持ちを明るくもって、新型コロナウイルス感染予防対策の基本である「手洗い・うがい・マスクの着用」を励行して、新型コロナウイルスと闘っていきましょう。頑張ってください。

## 新型コロナウイルスの影響で「定期総会」は中止

4月20日に開催予定していました定期総会は新型コロナウイルス感染予防のために中止となりました。定期総会の代わりに4月の各ブロック定例会にて、本年度の総会資料を配布しました。同時に新入会員22期生の8名の方々に法被・ベスト・帽子が授与されました。また、10年勤続表彰として13期生の9名の方々に表彰状と記念品が授与されました。

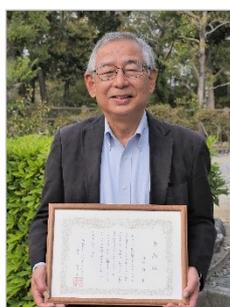
### 10年勤続表彰



**齋藤博行さん（東ブロック）**  
ボランティア活動に励みたいと思いを会しました。先輩会員の叱咤激励を受け、10年間活動してきました。今後は微力ながら、隠れた浜松市の魅力を発信して行けたらと思います。



**杉山啓子さん（西ブロック）**  
あっと言う間の10年間でした。ブロックの良い人たちに囲まれてここまでやれました。これからは楽しいことを見つけて健康の間はいつまでも続けたいです。



**杉山淳一さん（西ブロック）**  
10年間、会員の皆さんに支えられて楽しく過ごすことができました。静岡市出身ですが浜松市のことを更に勉強して知識を深めたいです。目標は20年勤続です。



**森部勝義さん（南ブロック）**  
定年を機に浜松に戻り、民間会社で6年間勤務。時間に余裕ができ、「広報はままつ」を見て入会。野口町に育ち、浜松八幡宮近辺を小学生に案内するのが今は一番の楽しみです。



**山中慎一朗さん（南ブロック）**  
46歳で入会。  
おそらく一番若い入会！  
今後も史上最強を目指して  
「浜松観光案内人」に努めます。



**川内加子さん（北ブロック）**  
精神的に満たされる社会活動、この頃もあの頃も今は全てに感謝です。「明けない夜」はありません。COVID-19 ウィルス感染拡大の収束です。行動変容が欠かせません。楽しく、頑張りましょう。



**川上英三花さん（中ブロック）**  
ガイドになり歴史を学ぶことができ、幸せです。研修部員として何もわからないなか、夢中で過ごした6年間は多くを学ばせて頂き感謝です。今後もおもてなしの心で接していきたいです。



**佐原正敏さん（中ブロック）**  
大学の友人に浜松を案内できるようにと当会に入会しました。先輩方の資料と指導でガイドができるようになり、感謝しています。お城や、犀ヶ崖でいろいろの人に浜松を紹介できて、楽しく過ごすことができました。



**森静子さん（中ブロック）**  
仕事との両立で定例会への参加もままならずご迷惑をおかけしました。浜松城他の各施設で、徳川家康17年間の歴史をお客様にご案内させていただける時を持てた事に感謝しています。

### 新入会員への法被他授与



## 新入会員現地研修会「浜松まつり会館」



御殿屋台に試乗する 22 期生

風は強いものの快晴に恵まれ、南の国からの使者ツバメが元気よく飛び交う中、4月6日(月)10時から新入会員を対象に、浜松まつり会館にて現地研修会を実施した。

22期生新入会員8名中6名、21期生2名、研修部員8名、計16名の参加を得て、「まつり会館」は、研修部の鈴木延夫さんと、杉本忠久さんが担当し、通称「いのち山」(正式名称は遠州灘海浜公園津波避難マウンド)は、益田啓子さんが担当して、それぞれ説明がされた。

ハイビジョンルームで、浜松まつりの8分間ダイジェスト映像を視聴した後、凧揚げ会組織図について説明を受けた。

凧の展示コーナーでは、凧合戦に使用する凧の大きさとして、2・4・5・6・8・10帖があるが、4・5・6帖の凧を主に揚げるとのことである。次の御殿屋台展示室では、絢爛豪華な屋台の説明を受け、浜松市政80周年記念の御殿屋台に22期生4名が試乗して感触を確かめていた。会館内の最後は、写真等の掲示コーナーを觀賞した。掲示コーナーの壁面に、平成6年5月5日の凧合戦に敗れた凧が、西風に乗り上昇し、房総半島南端の千葉県南房総市白浜町に不時着した時の新聞記事や資料に興味深そうに見入っていた。

高橋館長の挨拶を受けた後、「いのち山」に向かった。いのち山は、地上高10.5m、海拔13.2mのマウンドに1,000人の避難者を収容することが可能である。マウンドの南側と北側に、ベンチが設置され鍵が掛かっているが、“何が入っているのだろう”と話題になり、後日、南区役所に問い合わせたところ“なにも入っていません”との返答であった。最後に、まつり会館事務室内のロッカーの場所、当番日誌の保管場所や、昼食場所について研修部長の鈴木利雄さんから説明を受けた。

浜松まつり会館スタッフの飯田さん、伊藤さん、中村さん、鈴木さんの4名を紹介されて、12時に現地研修会を終了した。



「いのち山」頂上にて集合写真

### 会員の交流広場

### 開園50周年のフラワーパークを訪ねて

自粛が続き、暗いニュースの中にも活路を求めて明るいニュースも報じられるようになりました。朝刊と一緒に届いたフリーペーパーに春爛漫のフラワーパークへのお誘い記事があり、開園50周年記念でスロープカーが新設されたとあり、早速見に行ってきました。フラワーパークは段差がネックで、昨今は花好きな母を連れて行くのも躊躇していました。

“フラワーパーク”もう50年ですか。移植されただろ木々たちも館山寺の土地にしっかり根付き、50年の重みを感じました。スロープカーは温室前から浜名湖ゲート方面へ設置され、広々として、景観もよく、エレベーター仕様で操作も簡単、車椅子もベビーカーもオッケーです。



新設されたスロープカー



筆者お気に入りスポット

コロナ影響で来園者はまばら、ゆったり二回りして花々たちの競演を満喫してきました。山の方に真新しい吊り橋もありました。スリリングな吊り橋ではありませんが子供たちには十分。お土産に色とりどりのポット苗を沢山買ってきて庭に植えました。お花でお部屋を明るくと、ミニブーケが流行っているそうです。動くことのできない植物たち。溢れんばかりの植物エネルギー、じっとしていることの知恵に癒され励まされて、まだまだ続くかもしれない自粛生活を楽しむようにしたいと思います。

南ブロック 金原里枝

## 南ブロック自主研修会「祝田の歴史遺産巡り」



井伊直親の墓に向かう

歳等を見学しました。最後に、都田川沿いの井伊直親の墓に行きました。墓の前には幟旗が立てられていましたが、色褪せ、ボロボロになっていて、大河ドラマ終了から2年の経過を感じました。

4月2日(木)、南ブロックの有志15名の参加により「祝田の歴史遺産巡り」が行われました。案内人は杉本忠久さんです。三方原墓園に集合し、三方ヶ原の合戦時武田信玄の本陣があったとされている根洗松へ。そこから北へ約200mの坂(祝田の旧坂)を下って行きました。

坂を下って、257号線をさらに約550m進みますと蜂前(はちさき)神社に到着します。ここでは、井伊直虎直筆(複製)の徳政令発行文書が見られます。神社は入母屋造りで本殿、幣殿、拝殿の造りになっていること、そして、本殿には三種の神器が奉納されていることなどを伺いました。蜂前神社から約1.2km北西の中川寺ではおんころ様、鼻かけ地

南ブロック 吉山万智子

## 新入会員の入会動機

定年退職後には、何か今やっている仕事と違ったことをやってみたいなど漠然と考えていました。モールス信号を使いアフリカ西海岸(カナリア諸島沖)でトロール船の船舶通信士、銚子市(千葉)で海上にいる国内・外船籍の船舶との無線電報の交信、また、東京・神奈川では、メタルケーブルから光ファイバケーブルへの通信網の設計、建設工事、保守業務に従事し、日本史とはかけ離れた仕事をしていました。

出身は石川県の能登半島増穂浦(ますほがうら)海岸に近い小さな町です。縁ありまして、平成12年から浜松市に住むことになってからは、どこかで必ずと言っていいほど、徳川家康公の浜松時代の話を知ることが多くなりました。それまでの家康公の知識は、安土桃山時代の関ヶ原(西暦1600年)で石田三成との戦い、1603年には、征夷大將軍に任命され江戸幕府を開いた偉大な歴史人である。と誰しもが知っているようなレベルでした。徳川家康公の「人となり」をもっと深く知りたい、知識レベルを向上させたい気持ちと、この会で活動されている同じ会社だった人からこの研修・活動内容を聞ける機会があり自分にも出来るのではないかと思い参加を決めました。諸先輩の皆さん、ご指導のほどよろしくお願い致します。

西ブロック 桑原義信

### 4月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」「犀ヶ崖資料館」「浜松まつり会館」、浜松駅構内の「浜松市観光インフォメーションセンター」にて、来場者にガイドを行っていますが、4月は新型コロナウイルス感染拡大防止のためガイド活動を中止しました。

#### ★お知らせ★

現在、当会は新型コロナウイルス感染拡大防止のためガイド活動を中止しています。今後、ガイド活動が再開されるまで「はままつ案内人会報」の発行を中止します。

何卒ご理解とご協力のほどよろしくお願い致します。

### はままつ案内人会報 218号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町100-2 (浜松城内)

TEL&FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ <http://www.hama-svg.jp/>

はままつ案内人

検索



出生大名 家康くん

出生法師 直虎ちゃん